

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年12月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2870902406		
法人名	有限会社PKKちょうしんき		
事業所名	グループホーム あんだんて西宮五月ヶ丘		
所在地	兵庫県西宮市五月ヶ丘12-9 (電話)0798-75-2117		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】 (19年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	38292		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤7人, 非常勤	人, 常勤換算13.77人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての2~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	35,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(350,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,250円	

(4) 利用者の概要 (10月20日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4	要介護2	1		
要介護3	8	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 85.3歳	最低	74歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団上ヶ原病院	弥源治歯科医院
---------	-------------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急沿線の閑静な住宅街に位置したホームである。「馴染みの関係」「自立」「利用者本位」を理念のキーワードとし、入居者の生活歴を大切にしながら、入居者本位に過ごせるようタイムスケジュールを作らず個々のペースにあった生活が継続できる支援に取り組んでいる。入居者の高齢化や重度化への対応として、入居者やご家族の希望があれば受け入れる体制にしている。入居者の状況に応じて面接を繰り返しながら対応し、できることやできないことを伝え関係者と話し合いながら取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価結果をもとに、玄関周辺や入り口に入居者手作りの手芸品、植木を増やし地域の方々が入りやすい雰囲気作りへの取組を実施。介護計画については、基本情報・記録用紙のよりわかりやすい方法を試行錯誤しながら取り組んでいる状況である。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	施設長・管理者は評価を前向きに捉え積極的に取り組んでいる。自己評価を職員全員で行い施設長がまとめ、評価のねらいや活用方法を職員全員が理解できるよう説明している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	定期的に、入居者家族・地域包括支援センター・民生委員等に参加を呼びかけ運営推進会議の意義や役割を説明し積極的に参加してもらうよう働きかけ、4回の会議を実施している。主にホームの活動状況の報告を中心に参加委員からの要望や助言を聞きサービス向上に取り組んでいる。自己評価・評価結果については、次回運営推進会議の中で公表し、会議メンバーからの意見を参考に改善に向けた取組みに繋げていくとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、ご意見投書箱を設置している。面会時・運営推進会議やイベント後に家族会を開き、意見・不満・苦情などを積極的に聴く努力をしている。また、苦情があった場合は、前向きに捉えサービスに反映させていくよう記録として残し振り返りの機会としている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	地域の行事(自治会や盆踊り等)に積極的に参加している。また、保育園や小学校・子ども会との交流も積極的に行っている。地域の一員としての取組みについては、地域との交流を深めるため利用者と共に清掃活動への取組みを検討中である。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	わたしの生活史（なじみの環境・暮らしを継続できるような“なじみの関係”）・わたしのちから（社会の一員として・・・“自立”）・わたらしく（わたらしい尊厳のある・・・“利用者本位”）の3つをキーワードとした理念を事業所独自で作りあげている。なじみの関係・自立・利用者本位の3つをキーワードとした理念を事業所独自で作りあげている。		事業所独自の理念に加えて、地域社会での役割、交流を目指す内容を盛り込むことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	実践で活かせるように具体化した理念10項目を毎朝のミーティング時に全員で唱和し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事（自治会や盆踊り等）に積極的に参加している。また、保育園や小学校・子ども会との交流も積極的に行っている。地域の一員としての取り組みについては、地域との交流を深めるため利用者と共に清掃活動への取り組みを検討中である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長・管理者は評価を前向きに捉え積極的に取り組んでいる。自己評価を職員全員で行い施設長がまとめ、評価のねらいや活用方法を職員全員が理解できるよう説明している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、入居者家族・地域包括支援センター・民生委員等に参加を呼びかけ運営推進会議の意義や役割を説明し積極的に参加してもらうよう働きかけ、4回の会議を実施している。主にホームの活動状況の報告を中心に参加委員からの要望や助言を聞きサービス向上に取り組んでいる。自己評価・評価結果については、次回運営推進会議の中で公表し、会議メンバーからの意見を参考に改善に向けた取り組みに繋げていくとしている。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者個別に情報交換の必要性が生じた場合やホームの空き状況など、密に情報交換を行っている。また、市主催の会議や説明会にも積極的に参加している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>毎月、ケア担当者がその月の様子・体調面・おしらせ・お願いを、写真を添付した手紙を送付し報告している。緊急時には電話で報告し職員全員が情報を共有できるように介護日誌の家族への連絡欄に記入するようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、ご意見投書箱を設置している。面会時・運営推進会議やイベント後に家族会を開き、意見・不満・苦情などを積極的に聴く努力をしている。また、苦情があった場合は、前向きに捉え、サービスに反映させていくよう記録として残し振り返りの機会としている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ケア担当者を変更する場合は事前に説明し、利用者が混乱しないように配慮し早期に馴染みの関係ができるよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修については、かかりつけ医による研修計画を作成し、ホームの理念や接遇等の研修を数日間実施している。スタッフより外部研修の申し出があった場合は一部研修費用を負担しスタッフの知識・技術向上の支援を行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市主催のグループホーム連絡会に定期的に参加している。他のグループホームからの空き状況についての問い合わせなどグループホーム間の情報交換を密に行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の相談後、原則的に自宅へ訪問し家庭の雰囲気を見てホームでも同じ雰囲気で生活できるように努めている。個々によって、ホームに遊びに来ていただき、食事やおやつと一緒に摂ったりしながら安心して入居できるよう取り組んでいる。また、空き室がある場合は宿泊も可能とし、入居者本人の安心と納得を大切にしたい利用支援に努めている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	共に学び合う機会として、入居者の知恵を取り入れ、様々な場面に活かしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族の思いを確認し基本情報としながら、日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。把握が困難な利用者については、家族からの情報をもとに顔の表情やしぐさ等で希望や意向を把握するよう努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の全体会議なので、ケア担当者を中心にご家族やご本人の意向をもとに個々に必要な支援を盛り込んだ具体的な計画が作成されている。また、意思疎通の難しい利用者については、行動や表情から把握するよう努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア担当者、計画作成担当者を中心に月1回全体会議を開き介護計画の見直しを行っている。また、本人や家族などから新たな要望や状況の変化があった場合も随時計画の見直しを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者やご家族の状況に応じて、通院や理美容院に同行している。空き部屋を利用したショートステイ及び共用スペースを利用したデイサービスの開始を検討している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医の他、入居者のホーム利用前からのかかりつけ医で受診できるよう支援している。通院の方法や受診結果の報告のあり方については、ご家族や、主治医と連絡をとり適切な情報交換ができるよう取り組んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、入居者やご家族の希望があれば受け入れる体制にしている。入居者の状況に応じて面接を繰り返しながら対応し、できることやできないことを伝え関係者と話し合いながら取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念唱和の第1項目に、入居者を「人生の先輩として尊敬し・・・」と謳い、誇りやプライバシーを損ねないような言動・行動を徹底している。食事介助が必要な入居者にはさりげない言葉かけでゆったりとした対応がなされている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的に時間を区切ったスケジュールはなく、毎朝、入居者に外出や入浴の予定を確認し、体調に配慮しながら出来る限り入居者の希望に応じた過ごし方の支援を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材のみ宅配業者に委託している。週1回自由メニューの日を作り入居者と共にメニューを考え買物に行き調理している。個々の力量・状態に合わせ職員とともに配膳・下膳・後片付けなど行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>24時間いつでも入浴できるようになっており入居者の習慣や希望に応じた入浴支援を実施している。ADLの低下に応じ車椅子のまま入浴できるポディシャワーを設置し、入居者の精神的、身体的状況変化に対応できるようまた、入浴が楽しめるよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯たたみ、掃除・草花の水遣りなど、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気晴らしの支援を行い、日常生活の中で生きがいと残存機能低下予防を目指している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、入居者に外出希望を確認し、散歩以外に、個々の馴染みの店や場所へ出かけている。気分転換や五感の刺激としてコンサート・寄席・地区開催のバザーなどに外出支援を行っている。また、季節行事の外出には、歩行困難な方でも車椅子を利用するなど積極的な支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外鍵をかけない生活を実施している。入居者が外出を希望した場合は、その日の入居者の状況を確認しながら安全性を確保し対応している。エスケープマニュアルも作成されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した実施訓練については、現在実施できていないが、消防署に協力を仰ぎ実施する方向で検討している。地域の協力体制については、ホーム近隣の住民に協力依頼している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材のみ宅配業者に委託し調理は入居者と共に作っている。週1回嗜好調査を行い、入居者の要望の多い料理をする。好みにより食が進まない入居者については、好みの物に置き換えるなど工夫している。食事量や水分量は、個々に記録して一人ひとりが必要な食事や水分が摂れるよう支援している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関を入ると畳張りのベンチとテーブルが置いてある。周辺に植木を置き壁には季節のタペストリーを飾り暖かい雰囲気が感じられる。玄関壁には入居者手作りの手芸品が飾られている。リビングにはソファや小テーブル等居心地のよい安心感のある場所になるよう工夫がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>エアコンと照明以外自宅にあった物を自宅の家具の配置に近いように置き居心地よい居室作りに取り組んでいる。</p>		

 は、重点項目。